

令和7年度 第1回西成特区構想エリアマネジメント協議会 こども子育て専門部会 議事要旨

1 日 時 令和7年7月1日（火）午前10時から午後0時まで

2 場 所 西成区役所4階 4－6会議室

3 出席者

【有識者】

村上委員（大阪大学）、永橋委員（立命館大学）、水内委員（大阪公立大学）

【地域メンバー】

山本委員（区PTA協議会会長）、荘保委員（わが町にしなり子育てネット代表）、
小林委員（NPO法人釜ヶ崎支援機構事務局長）、中村委員（天下茶屋中学校長）

【大阪市】

佐野指導主事(教育委員会事務局)

【西成区】

五條子育て支援担当課長

4 議事要旨

◎今後のこども・子育て関連施策の展開についての意見交換

【帰国来日等の子供のコミュニケーションサポート事業】

・この事業は令和6年度から予算を拡充していただいているが、対象者は今後も増えていく見込みなので、サポーターの方1人だけでは回っていかないのではないかなと思っている。この事業の予算を拡大していただけたら学校としてもすごくありがたい。

【こども生活・まなびサポート事業について】

・教育委員会事務局が実施する「校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）」には、今まで全く登校できなかったが通うことができるようになった生徒もいる。また、そこにも全く来れない生徒には区施策の「こども生活・まなびサポート事業」で、各学校に1人配置していただいている支援員に、毎朝連絡を取っていただいたり顔を見に行っていたりして繋がりを持っていただいております、本当に助かっている。

・不登校在籍率は改善されている。「こども生活・まなびサポート事業」で不登校支援をしていただいているので、効果が出てきたのかもしれない。

【家事・育児訪問支援事業について】

・児童虐待相談件数について、西成区はこの15年、大きく増加していない。本当に家事・育児訪問支援事業や、要対協でものすごく見ていただいていると思う。

【ヤングケアラーについて】

・ヤングケアラーについては、学校の教員でも気づきにくく、顕在化していないヤングケアラーが存在している可能性があるため、まずは学校の先生に向けて寸劇による啓発ができないかと考えている。

・幸い西成区の場合地域の資源がすごく豊富なので、学校の先生の負担を増やすのではなくて、むしろ地域の方でサポートできる支援者が非常に沢山しかもすごく高い質でいらっしゃるの、連携がより一層できると良いなと感じている。

【その他】

・子どもたちは、スマホやタブレットの普及により直接会話することも少なくなり、コミュニケーションを行うことが難しく、言葉遣いもすごく悪くなっていると思う。言葉、語彙力も大分低下していると思うところもある。

・部活動の外部コーチについて、部活動で何か問題が起きた時に子どもたちのことを一番良く知ってる先生方が関わらないことで、スムーズに解決できることもできないなど難しい部分もあると感じた。令和8年度から、部活動の地域展開が本格実施になっていく予定。地域展開になった時には、地域等から指導員を募集し実施していくことになる。子どもたちがトラブルを起こした時の教員の関わり方は課題。

・外国人の児童生徒については、生活実態も含めて色々と状況を知っておく必要あると思う。

・現場での状況を聞き「今、この予算が必要だ」という声が事業予算に反映されているのかどうか確認する必要があると思う。

◎その他

- ・令和7年度のスケジュールについて説明。
- ・次の開催時については時期・議題等改めて連絡する。

以上